

# シリーズ 三郷学

## 〈三郷学の視点⑰〉

### 三郷学の視点

#### 3. 今を知る (河川・水路)

三郷市には江戸川や中川、大場川、下第二大場川、彦成川などの河川があります。河川はジョギングや散歩を楽しむみなさんが、水辺の景色をみながら四季を感じ、潤いとやすらぎが持てる場所となっています。しかしその反面、昔から多くの水害に悩まされてきました。近年は、これまで田んぼや畑であった場所も宅地開発による雨水の保水能力の減少や、さらにゲリラ豪雨などにより、水害に対する危機対策が求められています。



河川改修後の下第二大場川

そのため、三郷市が管理する下第二大場川や彦成川は、河川幅を広げて上流地域で降った雨を安全に、かつ、スムーズに下流地域に排水させ、浸水被害の軽減を図る改修工事を行っています。

市内には、総延長約500キロメートルの水路があります。その多くが農業用水路として造られました。用水路としての必要性が無くなった水路は、排水路へと利用方法が変化してきています。

三郷市は平坦な地形であるため、水路に溜まった水を河川に速く排水する必要があります。そのために、河川の放流口には国の施設が1か所、県の施設が2か所、市の施設として26か所の排水機場が設けられています。これらの設備は浸水被害の軽減を図るため、天候や河川水位の状況によって運転しています。

河川や水路は、まちの安全を守り人の心にやすらぎを与えてくれる三郷の大切な資源です。